

# ❀ 中高一貫部だより ❀

発行；中高一貫教育推進部 平成29年1月30日

中高一貫教育推進部では、学校案内のリーフレットの作成や会津大学・会津大学短期大学部との連携事業、SSH 産業社会・総合的な学習の時間の中高接続などを行っています。今回の中高一貫部だよりでは、会津大学・会津大学短期大学部との連携事業の1つである**スポット講義**の中から、これまでに高等学校で実施した内容について報告します。

連携先	会津大学			会津大学短期大学部		
	①数 学	②英 語	③SSH 情報	④美 術	⑤美 術	⑥児童福祉
教科等	①数 学	②英 語	③SSH 情報	④美 術	⑤美 術	⑥児童福祉
日 時	12月9日(金) 第2校時	12月5日(月) 第5校時	12月9日(金) 第6校時	12月6日(火) 16:30~17:30	12月9日(金) 16:30~17:30	9月20日(火) 第1校時
対 象	高校2年生 理系一貫生	高校1年生	高校1年生	中・高美術部、美術系大学進学希望者		高校3年生 科目履修者
場 所	2年1組教室	大講義室	大講義室	美術室		生活デザイン室

## ①微分・積分に関するお話 ～なぜ、大学でまた勉強する羽目になるの～

講師： 会津大学 上級准教授 前田 多可雄 先生

微分・積分の歴史や高校で学ぶ微分・積分を紹介し、大学で学ぶ微分・積分との違いを講義された。特に、「実数の奥深さ」や「関数の制限の解除」に絞った内容であり、高度な大学数学を体験することができた。



《生徒の感想》

- ある程度の知識を持った上で話を聞くことができたので、難しいなど感じる所も理解しようと努力することができた。大学における数学がどのようなものなのかというイメージを得られたので良かったです。
- 高校と大学の数学のレベルは全然違うことを改めて実感しました。私はまだ微分・積分を自分のものにできていないので、冬休みなどを利用し、来年苦労しないように勉強していきたいです。
- 微積についてだけかと思っていたのですが、“実数”のお話もしてくださり、ためになりました。今回の講義を受けて高校でこれから学ぶ微積がわくわくしてきました。表面的な理解だけでなく、その先まで見据えた真の理解を目指して学習していきたいです。

## ②英語、正しく学んでいますか

講師： 会津大学 准教授 安田 尚子 先生



「学校で教えてもらっている英語は役に立つと思いますか？」という安田先生の問いに対して、「役に立たないと思う」と手を挙げた生徒が多数いた。学校で学ぶ英語は、スポーツで言えば筋トレ（基礎）の

ようなもので、競技が何か（目標は何か）によって、どんな練習をするか（どんな学習をするか）が違ってくる。筋トレをしっかりして（基礎力を身につけ）、目標に向かっていくことが大切だ。学校で

英語を学んだだけで（スタート地点に立っただけで）、自分で何もせず、役に立つ利用をしていないのではないのか（ゴールに近づいていないのではないのか）。また、学校で学ぶ英語は、堅い表現であるかもしれないが、相手を不快にさせる無礼な表現ではないため、最も知的で無難な英語であるという講義内容だった。生徒たちにとって、自分たちの学習の仕方を見直す良い機会になった。

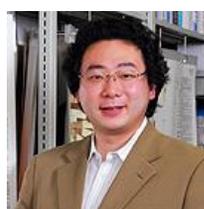
《生徒の感想》

- スポット講義以外で英語について深く考えることはほとんどないと思うので、今回の機会で考えることができよかったです。英語を活用できないのは、自分がそれに合った勉強などをしないからであるということ、また学校では基礎力を育て、自分でやるべきことを見つけてやらなければいけないということがわかりました。自分には英語の勉強が全く足りないと思うので、マイトレやテストの復習をもっとして、英語力を向上させたいです。
- 英語が苦手だったので、どのように勉強すればよいかなど、改めて考えることができました。また、学校の英語は意味がないと思っていましたが、全ての基礎力になることを知ったので、しっかりやらなければいけないと思いました。また、目的・目標にあった勉強をしなければならぬので、考えて勉強しようと思いました。
- 中学校の英語でつまずき、それから勉強の仕方がわからず、そのままにしてきてしまいました。今日の講義を聞いて、今までの自分の学習方法を見直し、少しでも弱点を克服していきたいと思いました。学習時間も今より徐々に増やしていきたいです。



## ③航空宇宙工学とコンピュータ技術者

講師： 会津大学 教授 出村 裕英 先生

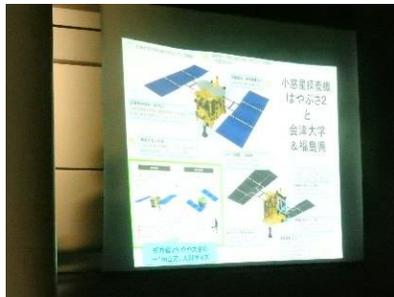


小惑星探査機「はやぶさ」のプロジェクトに会津大学の学生や教授陣がコンピュータ技術者としてどのように関わってきたのか、福島県内の企業・工場が機体製作にどのように関わっていたのかなどをプロジェクト秘話と共にお

かりやすくご講演いただいた。また、宇宙について知り、コンピュータ技術者として関わっていくには、数学・理科などの幅広い知識が必要であることを知り、生徒たちは文系志望、理系志望に関わらず、大変興味深そうに聞いていた。

《生徒の感想》

- 福島県の会津を含む多くの市町村の技術が「はやぶさ」という探査機にたくさん使われていると知り、驚いたのと同時に誇れることだと感じた。はやぶさ2にも更に進歩したコンピュータの技術が活かされていき、その技術というのは、私達が授業で受けている情報の延長線上にあるのだと思うと、今まで興味も無かったことが身近に感じた。
- イトカワのミッションの難しさ、そして、会津大学の技術のレベルの高さを知ることができて良かったです。福島は田舎というイメージがあったけど、そのイメージは今日で無くなりました。
- 天体についての研究は、理科と数学のあらゆる分野を活用することが分かった。
- 最先端の科学について研究するにはコンピュータの力が必要不可欠なものであることがわかった。



#### ④ロゴマークのデザイン

講師： 会津大学短期大学部 講師 北本 雅久 先生

北本先生の授業は、お店のロゴマークを考えようというものだった。折り紙を使ってロゴマークを作り、どのマークがどういったお店のものかを当てるゲームを行った。自分が考えたデザインが相手に伝わるように工夫することは大変だったが、とても楽しかった。



#### ⑤塗箸の研ぎ出し

講師： 会津大学短期大学部 教授 井波 純 先生

井波先生の授業では、津軽塗の箸の研ぎ出しを実施した。津軽塗とは、凸凹状に漆を仕掛けて、その上に何層かの色漆を塗り、研ぐことで層が現れて模様になるという技法である。研ぎすぎると模様がなくなってしまうので「いい加減」に完成させるのが難しかった。伝統工芸に触れる、とても良い機会になった。



#### ⑥こんにちの児童福祉

～ウェルフェアからウェルビーイングへ～

講師： 会津大学短期大学部 講師 鈴木 勲 先生



従来「福祉」の英訳として使用されてきた Welfare に代わる考え方として Well-being という言葉が使われるようになった。Welfare が事後的、補完的、代替的な「社会福祉」のあり方を表すのに対して、Well-being

はより個人の尊重、自己実現、権利擁護を基調にする“これからの社会福祉”である。子どもにも大人と同じように「人権」があり、それを保障することが「学校・福祉・保育の専門職」に求められており、「大人」の役割である。子どもは減少しているにもかかわらず児童虐待相談件数は増加している。非行児の70%は虐待を受けている現実を知り、乳幼児期に愛されることの意味、子どもが育つ条件、そして「人権」を深く考える講義内容であった。

《生徒の感想》

- 今回講義を受けて、子どもの育ちや児童虐待の問題がより深刻になっていると感じた。地域で子どもを育てるという意識が薄れ、親にかかる負担が大きくなっている現在、心身の疲れや余裕のなさが虐待につながるということが分かった。心理的虐待が増加しており、子どもの表情や言動などを注意深く見て危機を察知できる大人にならなければならないと感じた。また、子育てに悩んだり不安を感じてしまう親のサポートがいかに重要かも理解できた。
- 今回の講義で一番心に残ったのは、目に見えないものに気づくことの大切さだ。児童虐待のCMがとても印象的で、心に大きな傷を負って苦しんでいる子どもたちのSOSに気づくことができる大人になりたいと思った。それと同時に、子どもが嫌いではないのに結果的に虐待をしてしまう親の姿がとても切なかった。保育士を目指している私は、子どもだけでなく保護者の苦悩にも気づき、両面をサポートしていけるようにしっかり学んでいきたいと思った。



このようにスポット講義では、通常の授業や部活動等に大学、短大の先生をお呼びして特別な講義をしていただきました。生徒たちはいつもとは違う知的刺激によって視野を広げ、学習への意欲を高めていました。